

地方拠点都市地域づくりに関する方法論的研究

—地域のハイブリッド構造化に関する考え方と方法—*

A Methodological Study on Regional Development Establishing Core Area with Local Cities

-Focussing on Concept of Hybrid Structured Region-

春名 攻**・河合 幸雄***・足立 嘉文****・江本 真吾*****・大山 幸成*****

By Mamoru HARUNA, Yukio KAWAI, Yoshifumi ADACHI, Shingo EMOTO and Yukishige OHYAMA

1. はじめに

近年、大都市圏から比較的離れている地方都市圏においては、次のような時代背景のもとで地域開発の側面において自立的発展が強く要求されるようになってきており、強い脚光を浴びている。

近年においては四全総にも掲げられているように、人口の分散居住や産業の地方への分散の必要性や、地方の自立的な発展が望まれており、また高度経済成長期後の大都市圏における生活環境の悪化や産業活動環境の悪化に対し、地方が都市住民の転出先や産業の移転先の受け皿として重要視されるようになってきた。つまり新規産業の導入や地場産業の育成などの産業政策、都市化の推進、若年人口の定着のための職・住・学・遊という都市機能の充実といった魅力ある地域・施設整備の促進といった政策が強く望まれている。

さらに、大都市居住者をはじめとする国民が生活にゆとりを求めて、リゾートレクリエーション行動の範囲の拡大や多様化が求められるようになり、自地域にない自然環境・歴史的文化環境を求めて地方を訪問するといづモビリティの増大傾向が現われてきている。

もちろん、これらを支える高速交通体系がこれらを可能なものとしている。

以上のような時代背景や社会的風潮の変化を受けて、本研究においては良好な地域特性や地域条件を活かした地方拠点都市地域を形成する地域整備構想の策

定に関する研究を目指すこととした。

2. 研究の基本方針

地方都市圏地域の地域整備構想における基本的方針としては、これまで相反すると考えられてきたそれぞれの機能および要素等の混在化を目指そうとするものであり、都市社会様式と田園様式、自然環境と人口環境、先端的都市文化と伝統的地方文化そして先端的新規産業と伝統的地場産業等の融合を目指すものである。研究を進めるにあたっては、つぎのような4つの基本方針に立脚して進めることとした

a) 地方拠点地域全体を一つの広域的な地方都市圏域として検討を行なう。

b) 職・住・学・遊という都市機能をハイブリッド（混成）化して拠点的・分散的に整備するとともに広域的な機能連帯や協調体制を整える方法を計画論的に考察する。

c) 具体的な調査研究活動は、図-1に示すフローに従って進める。

d) 最終的には、魅力ある地域・圏域づくりを目指す方法について考察する。

(1) 中心核となる都市化地域の整備方針

これまで大都市、中都市に依存していた社会的機能や経済的機能を中心核となる地域に集中的に配置し、地域の自立の拠点となる役割をもたせ、広域圏全体の発展を図るための中心として位置づける。このことは、都市機能や都市施設の整備が必要でありまず都市拠点整備にあたっては、将来的にどのようなまちに誘導していくかについての基本的な方向性を明らかにする必要がある、具体的にどのような機能を導入し、あるいは強化するかを検討し、全体コンセプトとして取りまとめることとする。またその際に、広域的なバランスを考慮して都市機能等の配

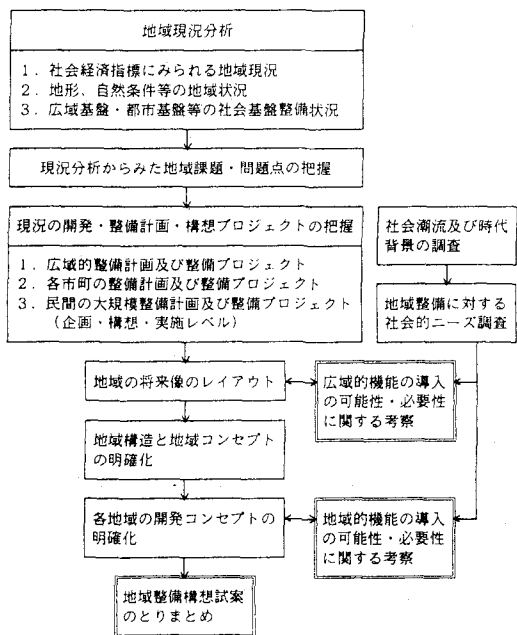
* キーワーズ：都市計画、地域計画

** 正員 工博 立命館大学理工学部環境システム工学科教授
(〒525 草津市野路町1916 Tel. 0775-61-2736 Fax. 0775-61-2736)

*** 正員 日本建設コンサルタント株式会社 大阪支社 技術2部第3課
(〒530 大阪市北区天神橋2-2-6 Tel. 06-358-0951 Fax. 06-358-8494)

**** 学生員 立命館大学大学院理工学研究科土木工学専攻
(〒525 草津市野路町1916 Tel. 0775-61-2736 Fax. 0775-61-2736)

***** 学生員 立命館大学大学院理工学研究科環境社会工学専攻
(同上)



図－1 調査検討フロー図

置が必要である。

(2) 分散核の整備方針

広域圏における中心核の役割は前述のとおりであるが広域圏全体では分散核という考えが必要となってくる。これは分散核を整備することにより、圏域全体をネットワーク化し、地域の連帯を強化していくことによって圏域の自立化を目指し、さらに共同利用等を行い、施設等の効率の整備を行っていく。

これらのことを踏まえながら圏域の全体構成の概念を効果的に実現する形に調整したり、修正・変更市、実現化のためのプロジェクトとして立案・事業化していく必要がある。また各町においては、文化的背景や自然環境を考慮し、明確な位置づけを行ない、個性豊かなまちづくりを行なっていく必要がある。

3. 地方拠点整備構想化についての実証的検討

－琵琶湖ハイブリッドアーバン構想について－

滋賀県琵琶湖東北部地域は、優れた地理的条件や自然条件を有し豊富な歴史的・文化的資源の存在

する地域であり、さらに、高速道路を始めとする道路施設や鉄道施設が十分に整備された極めて良好な条件を有する地域でもある。それにもかかわらず、戦後の工業化をはじめとする経済発展に取り残された感のある地域である。現在、四全総等の社会潮流や時代背景のもとで地域開発整備の側面で強い期待と脚光を浴びている。

(1) 琵琶湖東北部地域の各市町の現況認識

－行政へのアンケートに基づく整理－

個々の市町を魅力あるものにするために、各市町が現状の都市整備状況と今後望まれる都市整備に関してどのように認識しているかを、企画課等のその市町の活性化に関わっている担当課にアンケート調査を行った。アンケート調査を整理し検討を加えた結果にもとづき、各市町にほぼ共通すると考えられるいくつかの整備課題に関して述べると次のようである。

- ①彦根市・長浜市を除く各町では、全般に都市機能・施設等の整備が立ち遅れている。このため、他地域の高度な都市機能へのアクセスに便利ように広域交通基盤の整備、もしくはそれらへのアクセス関連（道路、バス路線）の整備
- ②各市町内での大規模商業設備、リゾートレクリエーション施設や教育文化施設などの整備
- ③各市町で対応できる医療・福祉施設の整備
- ④農業を産業の中心としている町の農業関連施設の充実
- ⑤地域産業の発展のための工業団地の整備や研究開発機能を持つインダストリアルパークのような機能の整備
- ⑥観光地、リゾート地を持つ市町の大衆的な宿泊施設の整備

(2) 地方拠点都市整備の整備方針

まず、各市町の総合計画及びその他の上位計画にみられる整備目標を参考にして、びわこハイブリッドアーバン形成のための整備方針に関して検討した結果にもとづいて求めた開発コンセプトを簡単に述べていくこととする。

a) 広域的な位置づけ

圏域の特性から次の2つの点が重要であると考えられる。

- ①広域ネットワーク拠点としての広域的連繋機能

の整備

琵琶湖東北部地域と周辺地域を結ぶ主要軸の整備が必要であり、各々のネットワーク機能を強化する方向での広域的連繋の整備が求められている。

②都市連携による広域圏整備

「琵琶湖東北部地域拠点都市圏」のもとに連合体としての一体的広域圏の形成を目指すことが適切であると考えられる。

b) 広域圏の整備方針

広域圏の地域ごとの個性に着目すると、大きくは、①近世の都市建設に源をもつ豊かな都市機能の集積地域 ②地域ごとの核となってきた市街地や産業の立地する地域 ③豊かな田園地帯として発達してきた地域 ④琵琶湖湖岸の水辺ゾーンや伊吹山をはじめとする山地地域などの自然環境地域等々に区別できる。これらのことから、次の4つのゾーンを設定して個性ある地域を形成するべきであると考えられる。

①都市拠点ゾーン

②産業・レクリエーションゾーン

③田園文化ゾーン

④自然環境保全・共生ゾーン

なお、以上のゾーン分割において、幹線道路の整備、広域交通網の整備についての検討が必要である。

また、歴史文化財を利用した観光整備、湖岸リゾート、山岳リゾートの一体的整備が必要とされる。これらハード面の整備だけでなく文化的イベント等の年間を通じての開催を行っていくことが、地域の活性化にとって効果的であると考えられる。

c) 各地域の整備方針

ここでは、琵琶湖東北部地域の中心核となる都市化地域とその周辺の分散核となるべき地域の整備方針を述べる。

①中心核となる都市化地域の整備方針

琵琶湖東北部地域の従来の中心地であった彦根市・長浜市の両市は、伝統的特性を損なわないように圏域の中心都市としてその都市機能の高度化を図り、全地域をリードすることが出来るようなポテンシャルを具備することであると考えた。

また、両市の中間地帯に存在する近江町・米原町では、従来の一次産業中心の田園都市の特性を活

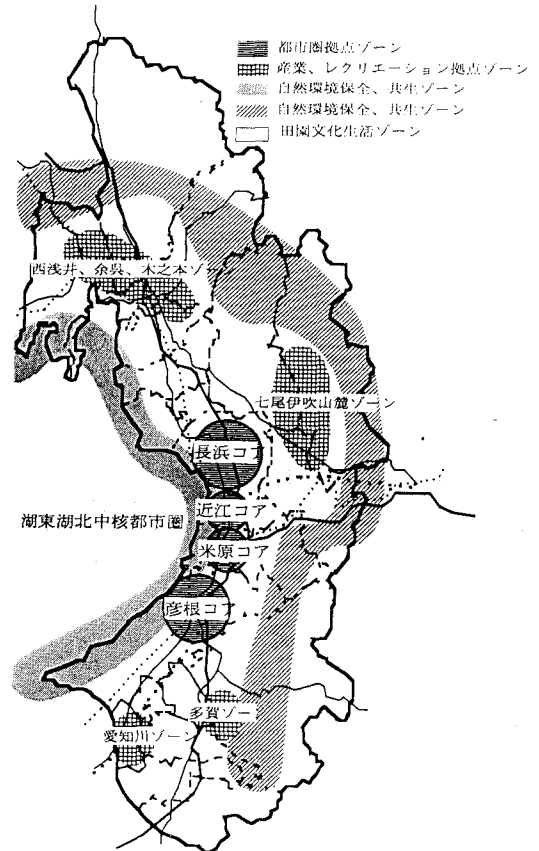


図-2 琵琶湖東北部地域広域圏の都市構造図

かしつつ、彦根市・長浜市の機能を補完したり、両市ではもち得ない都市機能を迅速に整備すべきであると考えられる。以上のような考えのもとに中心核となる都市化地域は、多様かつ総合的な機能を強化する上で機能分担と連携を図ることが必要である。つまり、共通機能の整備によって都市圏として一体的な地域のイメージの形成を図るとともに地域資源や立地条件活かした個性的な都市整備と適切な機能分担が必要であると考えた。

②分散核の整備方針

分散核における整備は、第一に生活基盤に関わる整備を優先するが、さらに魅力ある街づくりのための個性化を図るべき整備を推進することが必要である。そのために各市町の現況及び要望を十分に把握し、共同施設の選定や協調体制の確立を行う必要があると考える。

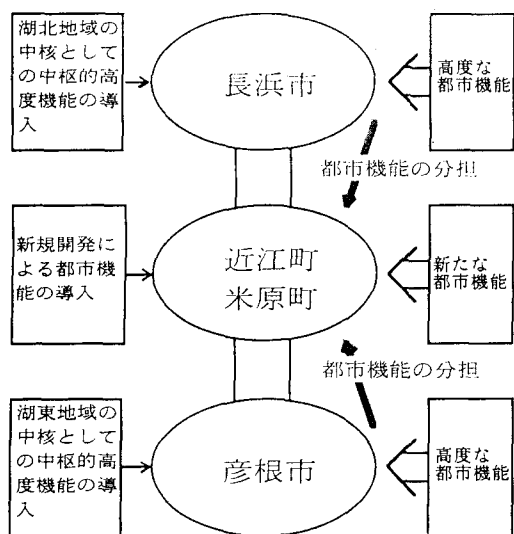


図-3 中心核における圏域構造の概念図

(3) 地方拠点都市整備の効果的実現のための提言
(ハイブリッドアーバン化に対する2、3の提言)

前述の整備方針を考慮しつつ、以下では地方拠点都市整備の効果的実現のための提言を追加して示すこととする。

- a) 地域マネジメントセンター（米原地区に置く）の設置
地域づくりや行事・イベントなど各市町や住民・企業の参画のもとでの交流センター・マネジメントセンターの役割を果たす。
- b) 産業構造の改革や新規産業技術の創出・導入を目的とする次の2つのセンターの設置
 - ①彦根市域の大学を中心とする先端技術や産業政策を研究し、当地域の支援センターとしての役割をもつセンター。
 - ②長浜市域を中心に地場産業への先端技術の導入や普及、並びにそれらの先端技術を導入した生産・販売など、マネジメントの技術の促進を支援したり、先端的産業の当地域への立地を研究するセンターを設置する。
- c) 広域にわたる地帯開発事業の実施
 - ①リゾート開発関連
 - (7)湖岸リゾート地帯の開発

マリーナ、ホテル、湖岸型商業・サービス施設

(イ)歴史街道文化観光地帯の開発

北国街道、中仙道他

(ウ)山麓リゾート・農村リゾート地帯の開発

(エ)各市町行事・イベントの年間を通じての連続的開催

②産業団地開発とその関連としての住宅地と商業施設の開発

4. おわりに

本研究では、魅力ある地方都市圏形成を目指した地域整備構想化に関する実証的研究を行なった。まず今回の対象地域である琵琶湖東北部地域における現況調査をアンケート形式で行ない現況把握し、広域圏構成のための中心核、分散核についての検討を行なった。またその際、地域の抱える最も大きな課題である人口の定住化の問題に着目して、職・住・学・遊の都市機能の整備方針について考察した。

今後の課題としては、さらに地域の特色を活かした地域づくりに関する研究を進め、地域構造の側面からみた地域づくりについても検討を行っていきたいと考える。

最後に、本研究を進めていくにあたって貴重なご意見をいただいた澤田会長をはじめとするびわこハイブリッド・アーバン推進協議会のメンバー各位、またアンケート調査にお答えいただいた各市町の企画課等の担当各位に感謝の意を表します。

【参考文献】

- 1) 土木学会 建設マネジメント委員会プロジェクト計画小委員会プロジェクト企画分科会：魅力ある地方都市圏づくりー調査研究報告書ー、1993. 12
- 2) 琵琶湖東北部広域市町村圏協議会：琵琶湖東北部新広域市町村計画、1991.3
- 3) (財)区画整理促進機構：米原地区都市拠点総合整備事業計画策定調査報告書、1994. 3
- 4) (財)滋賀総合研究所：SHIGA主要プロジェクト、1994. 2
- 5) 米原アミティ：彦根、長浜、米原から見たまちづくり、1994. 3
- 6) 滋賀県：湖国21世紀ビジョン、1992. 3